

広島市平和記念式典恩重派遣事業に参加して

餅田 梨桜

私が広島へ行つて一番印象に残ったのは、
広島平和記念資料館で見た被爆した人の服で
す。原子爆弾が落ちた時の熱や爆風で一瞬で
服が焦げたり、焼きちぎれたり、ヒリヒリに
引きさかれたりしている私が生きてきた中で
見たことの無い破れ方をしていました。
私と同じくらいの子供の服もあって胸が苦し
くなり見ていられませんでした。

また、原爆ドームも印象に残りました。私
はもともと原爆ドームについては知っていま
したが、なぜ残っているのかについてはよく
知りませんでした。ですが実際に原爆ドーム
を見たり、原爆ドームの歴史を聞いたりして
行く前より原爆ドームについて理解を深める
ことができました。そして原爆が落ちたとき
原爆ドームの中には人が沢山いたということ
も知り、全員が原爆が落ちたときに亡くなっ
てしまったと資料館で学びました。私は原爆

ホームを実際に見て、今まで写真や言葉でしか知らなかった原爆の被害を、少し身近なものとして感じました。

そして平和記念式典では広島市長の平和宣言や広島市の小学生の平和への誓いを聞きました。広島市長の平和宣言では、「自分の中の争いの心も乗り越え、相手の考えを受け入れる気持ちを持ってほしい」というメッセージがありました。平和な世界をつくるためには、国のリーダーだけでなく、私たち一人一人

人の行動も大切なのだと気づきました。平和への誓いでは、「被爆体験を直接聴くことができる最後の世代として、当時の記憶と事実として受け止める使命がある」とありました。原爆が落ちた瞬間や戦争を経験していない私達に想像をするしかない部分もあると思います。だからこそ今は被爆者の貴重なお話を聞いて、沢山の人のことを伝え、広げ、次の世代へ受け継ぎ平和な未来へとつなげていきたいと思いましたが、

最後に、今回の派遣事業を通して、今ある
この平和は、先人たちが努力を積み重ねてき
たからこそあるものなのだと考えます。
今はAIを使った「AI語り部」で当時の人
の体験を聞くことも出来たりVRを使った原
爆被害を疑似体験でできるものもあります。
遠い昔のよう感じる歴史も、AIの力を使
えばリアルに実感し、受け継ぐことができま
す。AIは過去と私たちをつなぐ新しい架け
橋になると思います。

観光で行かせていただいた宮島では、沢山の
シカや、^{ミヤジマ}厳島神社を見れました。フェリー
に乗って海の上を渡る体験はふだんない体
験でとてもわくわくしました。フェリーの
から見た宮島、海はとてもきれいでした。
2日間、色々な体験をして沢山学びを得られ
た。とても楽しかったです。